

関東支部例会(見学会/講演会/忘年会)開催報告

関東支部企画運営WG 杉本 竜之介 (株式会社コンセプトアンドデザイン)

去る12/8(金)に開催された関東支部例会(見学会/講演会/忘年会)について報告します。

DMM.make AKIBA見学会からはじまり、講演会では関西大学システム理工学部田實佳郎教授より「IoT時代を切り開くwearableデバイスの具現化を目指して」、GROOVE X株式会社林要様より「新世代家庭用ロボット“LOVOT”コンセプト」をご講演いただきました。忘年会ではよしもと芸人のスペリー・マリーキュリーさんをお招きし、笑いのある楽しいひとときを過ごしました。

見学会について

DMM.make AKIBAは、モノづくりをする全ての人達を支援してくれるモノづくり施設である。製品の開発から検証までに必要な各種工作機械、装置の最新設備が揃っており、各種認証試験や耐衝撃試験など量産するまでの工程をトータルでサポートしている。また部門毎にエキスパートがおり、自分たちが製品開発行っていく上での悩みがあれば相談、アドバイスをもらうといったことも可能としている。別フロアにはイベントスペースやオフィススペースの利用も可能となっており、打ち合わせでの利用や個人的な作業で利用するなどフリーな形式で仕事ができるため、女性からも熱い支持を受けている。将来的に製品開発を検討しているかどのようにモノづくりを始めていけばいいのか?製造や検証工程で必要な場所や機材の問題で悩んでいる、そういった悩みを抱えている方達がいればぜひ一度DMM.make AKIBAへ足を運んでみてはいかがだろうか。

講演会①「IoT時代を切り開くwearableデバイスの具現化を目指して」

産業の仕組みや人々の暮らしなど社会全体を大きく変える可能性を秘めたIT分野として注目を集めているIoT。田實様はインターフェースデバイスのセンサ材料として圧電性L型ポリ乳酸(PLLA)を利用したセンサデバイスでIoT時代を支えようと研究されている

方である。今回日本の伝統工芸である「組紐」の技術を用いることにより、1本の紐で「伸び縮み」、「曲げ伸ばし」、「ねじり」といった動きのセンシングを可能にした組紐状のウェアラブルセンサ「圧電組紐」を開発された。圧電組紐は、PLLAの高分子の特徴を活かして電波や人間が発生するノイズを遮断し、低ノイズで高感度なのが特徴である。また温度変化の影響を受けない、電解配向処理という前処理を行うことなくセンサとして用いることが可能となっている。しかしながら実用に向けての課題は多く、今後更なる研究と共にファッションやスポーツアパレル、インテリア、ヘルスケアなどに向けて展開していきたいと考えている。将来的には人々の生活に反映され、身近な製品となって使用することがあるかもしれない。IoTに絡めた製品が参入し、新しいサービスを活用していく時代はすぐ目の前にきているのかもしれない。

講演会②「新世代家庭用ロボット“LOVOT”のコンセプト」

IT市場を賑わせているロボット、AI事業。特にビジネス的に着目されている点でいえば日々の業務の「効率化」「自動化」「コストダウン」といった点で非常にニーズを高めてきている。特にロボットと聞けば大抵の人のイメージとしてコストダウンを図るための機械と考えることが多いのではないだろうか。現在のトピックでいえばドローンや自動運転車などが例として挙げられる。そのような風が吹いている中、GROOVE X株式会社では人の心身をサポートするロボットを開発しているという。それは人の心をサポートし、能力向上を手助けするようなロボットであるという。

はじめに何故ロボットというデバイスが選定されたのか、それは人間の脳がもつ「意識」「無意識」の領域に理由があるという。受動意識仮説によると人間の意識や意志を動かしているものは無意識であるという。例えば昨年度大きくIT市場を賑わせたSONY製品のVR。VRは人のもつ三半規管、視覚、聴覚に対しての経験や刺激を与える製品であ



る。近年のVRを使った実験より人はそれら3つの刺激を受けると無意識領域に大きな影響を与え、自分の意志の力では抵抗できないほど行動決定に支障がでるといった検証結果がでたという。これはVRが与えている映像がバーチャル世界だとしても人はリアル(現実)だと錯覚してしまうことが原因と推論されている。

次にもう1つ挙げておきたいのが「承認欲求」と「孤独」についてである。古代より人は集団行動を形成するために承認欲求や孤独は大事な機能だったといわれている。様々な歴史を得て今の世界の安全性が高まったことにより、先進国では核家族での生活といったライフスタイルのニーズが高まるようになった。しかしながら人は集団の中で生活する上で「承認欲求」や「孤独」の機能は誤って発動されてしまうという。このように古くから残された2つの機能と現代のライフスタイルの間でミスマッチが起きていることから次世代の癒しが必要だと認識したという。

ロボットは脳へのアプローチをするのに適切なデバイスだという。それは結果的に人とITの距離を縮め、癒しを人に提供できるようになると考えられている。「人の代わりに人を癒す次世代のロボット」をテーマにもつLOVOT、人とロボットの繋がり構築していく

新たな架け橋となるかもしれない。2019年の正式発売が非常に待ち遠しいものとなった。

忘年会

忘年会ではよしもと芸人であるスベリーマーキュリーさんよりコントを披露してもらった。QUEENを誰よりもリスペクトし、その愛

は芸として披露してしまうほどだ。中でもマーキュリー体操ではJASA WGメンバーも一緒に踊った。コント終了後も会が終わるまでJASA会員の皆さんと一緒に忘年会へと参加され、最後まで笑いと盛り上がりのある会となり、よい一年の締めとなった。
